

みのの EDO

東京 笠原情報誌 MAIL版

多治見市 モザイクタイルミュージアム

企画展 青の誘惑 ～タイルにみる青の世界



miyashita design office Akihiko Kase

今回の企画展はタイルの青色に注目。現代のメーカー・
商社等によるタイルで作られた空間をメインとし、常設展
示も含め、ミュージアムの3階全体が青色のタイルで埋
め尽くされた。開催は2025年5月18日(日)まで。

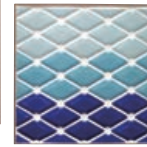
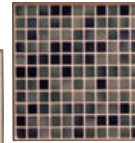
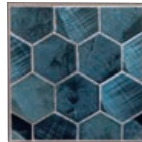
青色はタイルにとって特別な色。たとえばポルトガ
ルのアズレージョに、イスラムのモスク、ピラミッドに
張られたタイルも青色だ。

ここ多治見では、青色といえばプールタイルの色。
第二次世界大戦後、主にアメリカへの輸出用に作ら
れ、戸建て住宅のプールの壁を美しく彩ってきた。一
方、近年タイルの生産が外装用から内装用に移行し
つつあり、青色が製品の中に登場する機会も増えて
きている。

展示ではタイルメーカーや商社、釉薬メーカーの
27社がタイルパネルを提供。といっても壁面の展示
はなく、「ホワイトキューブ」と呼ばれる四角い箱のよ
うな小屋が建つのみ。

ホワイトキューブ 青色タイルのいま

現代の美濃焼タイルの「青」を結集した展示空間。
タイルの名称と製造元が分かる小冊子も配布している。



「茶室の意匠を取り入れています」と学芸員の清水
雄也さん。床には飛び石を模してグレーのタイルが
点々と敷かれる。その先は2方向に分かれ、一方には
つくばいならぬ、タイルシンクが置かれる。もう一方
はキューブの入り口へと続く。青色の空間がのぞき、
期待を高まらせながら、小さな入り口から足を踏み入
れる。

現代タイルが作り出す小宇宙

広がるのは青一色の異空間。無数の青色タイルが
きらきらと輝く小宇宙のよう。天井と壁に張り巡らさ
れたパネルの数は240枚以上。畳敷きのスペースも
設けられており、幻想的な空間に浸りながら、現代の
タイルの「青色」を堪能できる。

清水さんに指し示され、パネルの間に小さなフッ
クが付いているのを発見。これは床の間で掛け軸を
かける軸釘を模し、タイルの役ものメーカーが制作し
たものという。そんな細部にもぜひ注目してほしい。

当初の予定を変更し、来年5月半ばまで会期が延
長された。二度三度と訪れて、唯一無二の空間を楽し
みたい。



にじり口をイメージし、
小さめに作られた入り口
から青の世界がのぞき、
期待を持たせる。



飛び石の先にはタイルシンクが
置かれる。

3階全体が青いタイル尽くし!

収蔵品の中から様々な青色タイルを展示。
現代のタイルとどう違うのか。
比べてみれば、新たな発見がありそうだ。

山内逸三の青

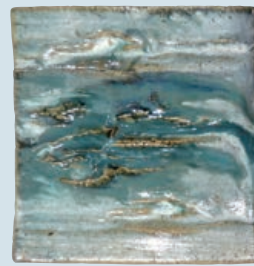
この地で施釉磁器モザイクタイルを開発し、量産化に成功した山内逸三(1908~1992)。彼が制作した青色のタイルも展示されている。深く落ち着きを感じる色合い。



収蔵品にみる青色タイル

明治時代の敷瓦や、平成時代に復刻したマジョリカタイル、フランスやドイツのタイル、現代アーティストによるタイル貼りクッションなど、明治から現代までの収蔵品を展示。

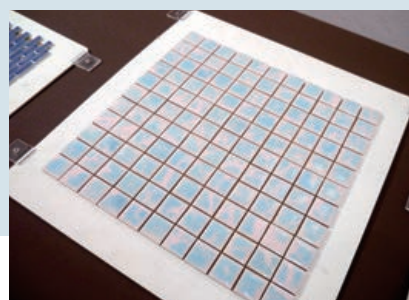
牡丹タイル/酒井紫羊/
令和3年(2021年)
/多治見市モザイクタイル
ミュージアム蔵



名称不明/高田工芸/昭和
50年頃(C1970)/多治見市
モザイクタイルミュージアム蔵

常設エリア

通常は多彩な色を並べ、モザイクタイルの色数の多さを伝える張り板やタイルサンプルの展示も、今回は青色で統一。ミュージアムのリピーターにとっては「このタイルに青色もあったんだ」と新鮮に感じられそう。



淡いピンク色と青の取り合わせが美しい。
8分角マーブル/製造元不明
/昭和30~35年頃(1955~
1960)

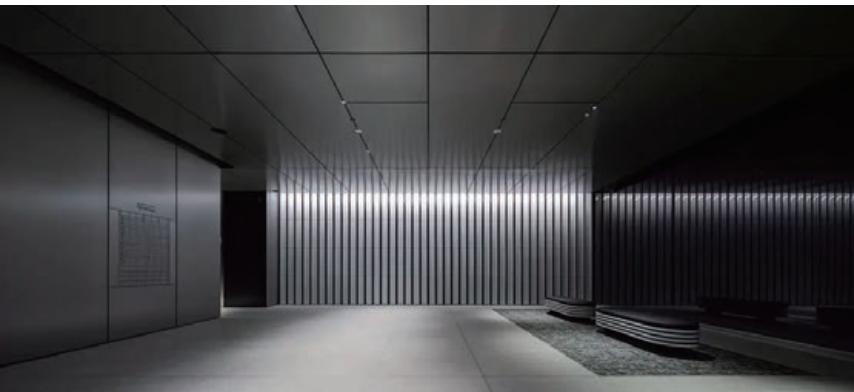
名古屋モザイク工業 Design Award 2024 受賞作品決定!

タイルを使用した施工事例のコンテスト「デザインアワード2024」。第9回となる今回は436件の応募があり、住宅部門・非住宅部門において金銀銅賞・入賞・特別賞を選出。その中から非住宅部門・銀賞の店舗を訪ねた。



*受賞作品および設計者、審査員のコメントはウェブサイトにて紹介。

<https://www.nagoya-mosaic.co.jp/designaward/2024.html>



非住宅部門
金賞

大宮ソラミチKOZ
KAJIMA DESIGN

設計 KAJIMA DESIGN 佐藤建
撮影 エスエス 走出直道



住宅部門
金賞

田中の家
株式会社 hut 建築事務所

訪問レポート

非住宅部門
銀賞

HOBA / TOSSO / OSCAR WILDE
SNARK Inc.

2つのファサードにタイルを使用

お店があるのは、地下鉄六本木駅直結の六本木ヒルズノースタワー1階。外に面したファサードはガラス張りでもオレンジ色のタイル張りの店内がよく見えた。

オープンが2024年4月。カレー屋、ビストロ、ドーナツ屋の3業態を持ち、いずれもメニューはビーガン仕様。2つあるファサードには、色違いのタイルが使われている。オレンジ色のタイルの空間には座席が設えられ、昼間はカレー屋「HOBA」、夜はビストロ「TOSSO」に替わる。

「ビーガンなので、外国人のお客も多いですね。お店のデザイン性も面白がってくれます」とゼネラルマネージャーの高橋知哉さん。

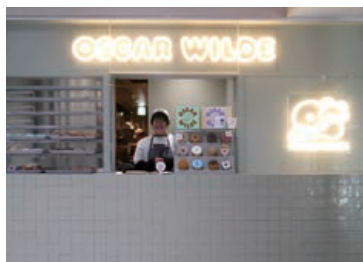
店内は壁だけでなく床、棚までタイルで覆われ目地も同系色に揃える。目地の色は黒などいくつかの案があり、検討を重ねたという。

オレンジ色の空間で黒い線で描かれたイラストが引き立つ。イラストレーターが直接、壁に描いたといい、ストリートアートのような自由さもあり、アクセントになっている。

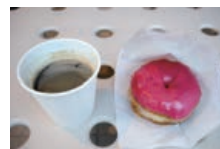
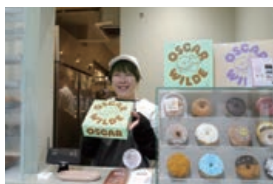
設計者のコメントによると、廃棄物の量を抑えるためにタイルは可能な限りカットせず使用できるように各部の寸法を調整したという。棚やカウンタートップまでタイル張りであって、その苦勞がしのばれる。環境への配慮は、お店のコンセプトであるビーガンにも通じる。そうした細やかな配慮が集積し、心地よい空間を作り上げているのだと感じた。



HOBAは「朴葉」、TOSSOは「お屠蘇」、OSCAR WILDEは言わずと知れた海外作家の名前で、「楽観主義者はドーナツの輪を見る。悲観主義者は穴を見る」の名言があることから。



ドーナツ屋「OSCAR WILDE」のテイクアウト専用カウンターはビル内にあり、淡いグリーン系のタイルを目地なしで使用。



谷内六郎のタイル絵

伊奈製陶のPR誌を飾った昭和の四季

懐かしく温かみのある風景を描いた谷内六郎。1963年から2年間、伊奈製陶のPR誌の表紙絵を担当、タイルを用いて作品を制作した。このタイル絵を紹介する企画展がINAXライブミュージアム(愛知県常滑市)にて開催された(9月7日~12月3日)。

谷内六郎の代表作の一つに、26年にわたる「週刊新潮」の表紙絵が挙げられる。PR誌『伊奈だより』の表紙絵を担当したのは、同時期にあたる1963年8月号~1965年7月号。制作には、伊奈製陶から送られた多種多様なタイルを使用。展示では全24作品のうち、10点を実物作品で紹介している。

作品はタイル絵と聞いてイメージするものと少し違う。タイルの上にPタイル(プラスチック薄板)や厚紙を重ね張りしたり、絵具でタイルに色を塗ったり。自由に楽しさにあふれた作品を前に、自分でも作品を作りたいようになってくる。

「タイルをベースにしたコラージュに近いですね」と学芸員の立花嘉乃さん。

冷たく硬いタイルを素材に、温かく柔らかな世界観が表現されていることが面白い。トイレの壁に張られるような白い内装タイルは、積みりたての美しい雪に。タイルは使い方次第で様々な表現ができることを実感する。

毎号、タイル絵には短いエッセイが添えられている。率直な思いを綴った文章からは、谷内の人となり伝わってくる。タイルに関する話題もたびたび登場。第1回は、冒頭で「タイルは並べていくだけでも知的な、音楽的な感覚をもつ仕事」と述べている。毎号のタイル絵とエッセイを『伊奈だより』の編集者も当時の読者も、さぞ楽しみにしていただろうと想像した。



併せて作品に使用された伊奈製陶のタイルの見本台紙を展示した。

第1回目の表紙



湖

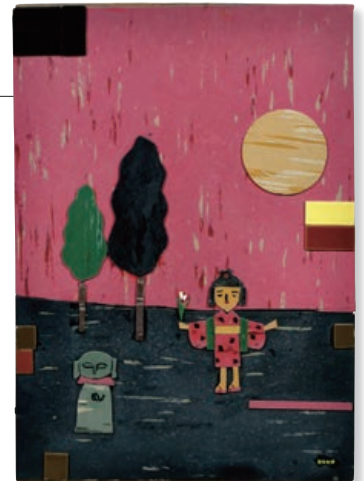
『伊奈だより』1963年8月 NO.73

「タイルという材料は、並べていくだけでも知的な、また音楽的な感覚をもつ仕事です。

今まで、ぼくは、絵具ばかりでしたが、タイルという材質そのものにすでに知的面の多分に含まれていることを知り、これは小学校の教材用にもぜひ広めていただきたいと痛感しました。タイルを割ったり、並べたりすることによって、おそらく児童たちは、体質感覚で知的また音楽等々あらゆる面の要素を得るという希望をもちました。」

月の出

『伊奈だより』1963年10月
NO.75



北国幻想

『伊奈だより』1963年12月
NO.77

ひなの季節

『伊奈だより』1965年3月
NO.92



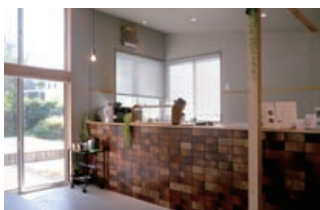


タイルテラスと焼きドーナツ

旧杉江製陶所(愛知県常滑市)の見本室タイル(みのEDO228号で記事掲載)の保存がかない、福祉施設「ワークセンターかじま」の敷地に移設されたのが2023年3月。1年半がたち今年8月に同じ敷地内にドーナツカフェ「ちかつの窯」がオープンした。全面ガラス張りの開放的な空間で、タイルテラスを眺めながら焼ドーナツをいただける。「ここがささやかな観光地になればいいなと思っています」とスタッフの田島壮太さん。INAXライブミュージアムからは徒歩15分程度。常滑街歩きの新たな拠点となりそうだ。



焼きドーナツは優しい味わい。



注文カウンターには常滑の水野製陶園のブロックが使われている(右)。

「ちかつの窯」愛知県常滑市かじま台2-167
営業時間/10:00-15:00
定休日/日曜・祝日・年末年始



ラスモザイク壁画「鹿」 1935(昭和10)~1940(昭和15)年頃
W1705×D32×H1770ミリ/LIXIL蔵

ラスモザイク壁画「鹿」を初公開

INAXライブミュージアム「土・どろんこ館」(愛知県常滑市)では、「なんとかせにゃあクロニクルー伊奈製陶100年の挑戦」を開催中(2025年3月25日まで)。今年100周年を迎えた伊奈製陶(後のINAX、現LIXIL)の歴史をたどる内容で、もちろんタイルに関する展示も。ラスモザイク壁画「鹿」は個人住宅の壁に設置されていたもので、今回が初公開。何色ものタイルを使って制作された壁画は、約170cm四方という大きさもあって絵画のような迫力と美しさがあり、細部まで見入ってしまう。

*ラスモザイク

約1.3ミリという薄いモザイクタイルで、表面に繊維の網(ラス)を塗り、壁紙のように容易に扱える。施釉128色、無釉16色という色数を持つ。

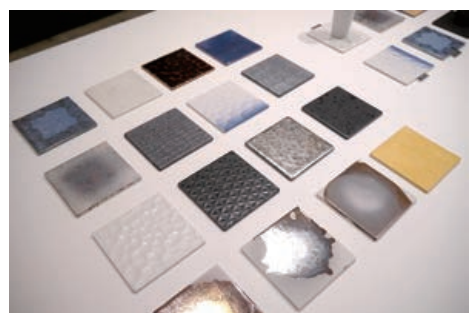
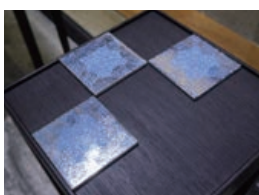


新生・中日ビルでモザイク画に再会

2019年に閉館した「中日ビル」(愛知県名古屋市)が建て替えられ、2024年4月に新生オープン。1階には飲食店が入り、タイルが内装に使われたカフェも。旧中日ビルの1階正面玄関ホール天井モザイク画「夜空の饗宴」の一部が6階に移設されている。大賑わいの飲食階と一転し、静かで広々とした中日ビルのロビーでモザイク画と対面。移設されたのは、元の作品の6分の1というが、間近に見られるだけあってなかなかの存在感があった。

有田焼のタイル「ARITILE」

10月19日~11月4日、東京ミッドタウン(東京都港区)のギャラリー「STYLE MEETS PEOPLE」で有田焼のタイルの展示販売があった。「ARITILE」は食器の卸販売を手掛ける金照堂が2021年に立ち上げた内装用タイルのブランド。有田焼の加飾技法が用いられており、金や銀の光沢があったり、水面のような凹凸があったりと独得の風合いを持つ。



ジャパンホームショー開催

2024年11月20日(水)～22日(金)、東京ビッグサイト(東京都江東区)において住宅・建築関連専門展示会「Japan Home & Building Show 2024」が開催された。全国タイル工業組合が出展するブース「CERAMIC TILE PLAZA(セラミックタイルプラザ)」を紹介する。



今回はタイルメーカーや接着剤メーカーの30社が、新製品などの40パネルを展示した。

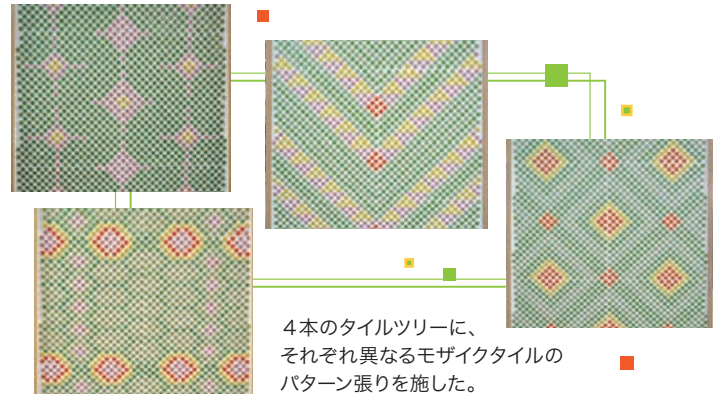
展示コンセプトは「タイルで感じる自然の癒やし タイル咲く里」。シンボルとなる4本のタイルツリーを設置し、「CERAMIC TILE PLAZA」ロゴを4.5メートルの高さに掲げ、遠くからでも目立っていた。

展示スペースは明るく、通路幅を広くとり、開放的な空間でゆったりと展示を見ることができた。

毎年実施しているアンケートは、3日目の閉場時間を待たずに予定分を終了。パンフレットを受け取ってくれた人も多かったという。

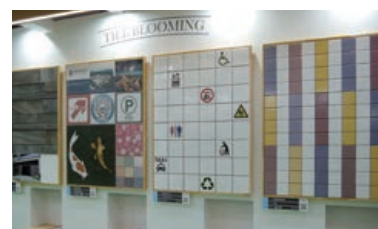
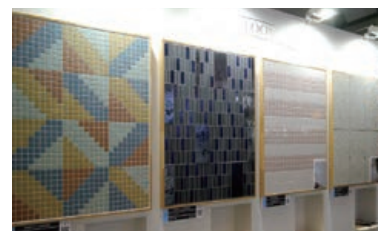
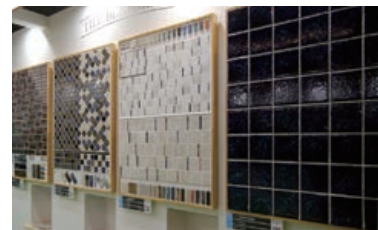


アンケートに回答いただいた方には、オリジナルのドリンクボトルをプレゼント。



4本のタイルツリーに、それぞれ異なるモザイクタイルのパターン張りを施した。

各社が多彩なタイルを披露。



タイル×SDGsを
ドラマで紹介!

大型スクリーンでは、新作動画「タイルの魅力再発見～タイル建材は優秀なSDGs商品～」などを上映。ドラマ仕立てで、タイルメーカーの女性社長の前に、初代会長が突如現れるシーンから始まる。原料や釉薬メーカー、焼成工場などを二人で訪問。現代のタイル業界のSDGsに向けた取り組みを紹介する。

全国タイル工業組合のウェブサイトで、
動画とジャパンホームショーのバーチャルブースを公開中!

タイルの魅力再発見 ～タイル建材は優秀なSDGs商品～
<https://www.tile-net.com/sdgs.html>

バーチャルブース
<https://my.matterport.com/show/?m=q6Ej9QiMazW>